

ラグビーワールドカップ2019シンポジウム

－ 仙台でラグビーワールドカップ2019を開催される意義について －

2月21日（土）仙台市青葉区のTKP仙台カンファレンスセンターにて県協会主催で開催されました。シンポジウム会場にはラグビーファンや高校生で定員を超える210人のご来場を頂きました。元日本代表監督の向井昭吾氏（コカ・コーラレッドスパークスGM）を迎え、ラグビージャーナリストの村上晃一氏の進行のもと「仙台市でラグビーワールドカップ2019を開催する意義」をテーマにパネル討論が行われました。パネリストには、元日本代表キャプテンのアンドリュー・マコーミック氏（関西学院大学ラグビー部ヘッドコーチ）、気仙沼出身のスポーツライター大友信彦氏、仙台ニュージーランド協会副会長のショーン・ダイア氏、仙台高専名取ラグビー部選手のご父兄の菅原友紀氏から、さまざまな立場からのたくさんの意見が出されました。

向井氏から、「芝生のグラウンドを作ることが必要」。マコーミック氏は、「ラグビーの精神を最高峰の舞台で見てもらいたい」と語りました。菅原氏より、「ラグビーはしっかり練習して、準備しないとできないスポーツですね。誠心誠意のスポーツだと思います」とのご意見に会場から拍手がおきました。世界中に復興に向けて被災地の姿を発信するためにもラグビーW杯を仙台市が選ばれることを期待します。

シンポジウム後の懇親会では、多くの参加を頂きパネリストの方々と交流が行われました。

（広報委員会）



（左から、村上晃一さん、菅原友紀さん、向井昭吾さん、ショーン・ダイアさん、アンドリュー・マコーミックさん、大友信彦さん）



（福富哲也会長）

